

Part 1. | 各教育機関の新たな「基礎看護学」のシラバスを知る

「基礎看護学」の「ヘルスケアサービス論」

—— SDGs (持続的健康開発)、ICTイノベーション、サービス科学、看護学を融合するリベラル・アーツとして

まっしたひろのぶ
松下博宣

東京情報大学 看護学部 基礎看護学領域 教授

本学の概要

東京情報大学 (以下、本学) 看護学部は、「自律と共創」という理念のもと、4年間をとおして、時代と環境の変化に対応できる「たくましい看護師」を育成することに注力している。自律とは、自分で考え、判断し、責任をもった行動をとっていく姿勢。共創とは、教職員はもとより、看護の対象者、友人、地域の方々と共に学び合いながら、未来の価値を創り出していくことである。また、東京情報大学という「情報学」に力点を置く大学に設置されている看護学部として、情報の利活用を重視している。Society 5.0において、情報学は、経済×情報、医療×情報はもとより、看護×情報、健康×情報、高齢社会×情報など知と知の融合を促し、政治・文化・生命・環境・農業など^{あまね}遍く分野の諸課題解決のキーワードともなっている。

見直しを行ったヘルスケアサービス論の紹介

新カリキュラム対応として、筆者が担当している「ヘルスケアサービス論」を抜本的に改定した。本稿では、その背景、経緯、コンセプト、具体

的な内容などを紹介したい。

授業シラバスの骨格となるものを図1に示す。すなわち、以下のとおりである。

- ①人の健康、地球環境の健康をSDGsの視点から問い直すこと。
- ②看護、医療の各種業務にも甚大な影響を及ぼす情報通信 (ICT) リテラシーの視点を盛り込むこと。
- ③看護サービスを科学として俯瞰^{ふかん}するために、サービス科学の視点を埋め込むこと。
- ④健康、医療、看護の視点から見据え、教養として涵養すること。

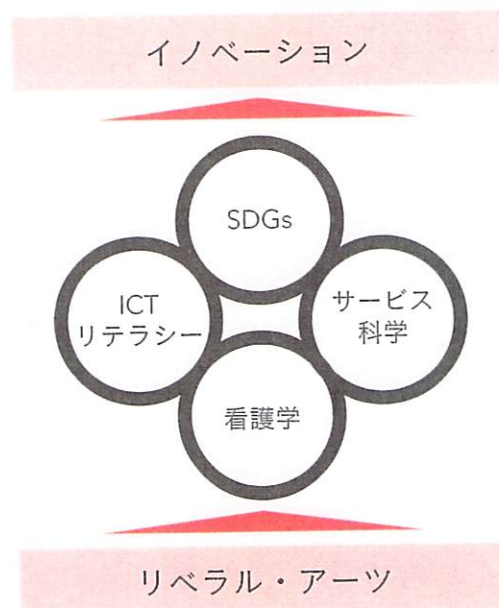


図1 新「ヘルスケアサービス論」のコンセプト

表 2022年度からの「ヘルスケアサービス論」のシラバス

<p>授業概要 必須</p>	<p>現代社会の看護サービスを含むヘルスケアのありかたは多様化、複雑化の一途をたどっている。この科目では、①健康基盤（健康インフラストラクチャ、ソーシャル・キャピタル、社会保障制度）、②プラットフォーム（電子カルテ、学会、各種基準など）、③医療組織、④对患者・生活者インタラク必須]ションという階層ごとに、特徴、問題、過去の経緯、今後の変化を概観する。また看護関連の多様なサービスにはイノベーションが巻き起こりつつある。サービス科学（Service Science）と呼ばれる先端領域の知見や人文学・哲学的なアプローチを動員して、多面的に現代のヘルスケアサービスを捉えてゆく。</p>
<p>到達目標 必須</p>	<p>知識・理解 ・現代のヘルスケアサービスにおいて創発している多様なイノベーションの一端を理解し説明できる。 ・ヘルスケアサービスを規定する制度的、法律的枠組みの限界について理解する。</p> <p>汎用的技能 ・「ヘルスケアサービス」に対して科学的にアプローチするサービス科学の基本を理解し、かつ説明できる。</p>
<p>アクティブ・ラーニング型授業</p>	<p>○</p>
<p>授業の方法 必須</p>	<p>毎回教科書とともに、資料を使って授業を行う。関連するテーマの看護師国家試験の問題もレビューする。小テスト、課題はwebclass経由で提出、採点を行う。</p>
<p>実務経験者の授業</p>	<p>○</p>
<p>実務経験を活かした授業内容</p>	<p>アメリカ、カナダ、スリランカ、コンゴ民主共和国でのヘルスケアサービス改善などの経験あり。授業トピックに応じて、それらの知見をシェアする。</p>
<p>授業計画 必須</p>	<p>①地球環境、人口構造、疾患、寿命の変化、病院の歴史と変化。ケアシフト現象とはなにか。 ②キュアとケア、施設志向と在宅志向、保健・医療・福祉サービスの変化 ③地域包括ケアと生活資源群としてのまち、地球環境のウェル・ビーイング、健康基盤のウェル・ビーイング、プラットフォームの堅牢性、組織のウェル・ビーイング、個人のウェル・ビーイング（主観的幸福感） ④ソーシャル・キャピタルと健康の関係 ポジティブ感情と主観的幸福観、主観的幸福感と健康、人と人との絆とウェル・ビーイング、女性の貧困問題 ⑤社会保障制度のイノベーション、日本国憲法で定める「生存権」、社会保障とは、社会保険、社会福祉、公的扶助、保健医療・公衆衛生 ⑥プラットフォーム（電子カルテ、学会、各種基準など） ⑦医療・看護サービス・イノベーション① 抗がん剤の副作用、がん治療のイノベーション、光免疫療法、マギーズハウス、元ちゃんハウス ⑧医療・看護サービス・イノベーション② 出生前診断、胃ろうをめぐる問題、医療イノベーションの裏側 ⑨医療・看護サービス・イノベーション③ 人口妊娠中絶の問題、遺伝子診断、ダウン症 ⑩ヘルスケア情報のイノベーション ビッグデータ、人工知能、センサー等が巻き起こす医療健康情報イノベーション ⑪看護に影響を与える情報プラットフォーム・イノベーション ⑫サービス科学のレンズでヘルスケアを見る① 使用価値、文脈価値、価値共創を看護の状況から考える ⑬サービス科学のレンズでヘルスケアを見る② 人生100年時代のヘルスケアリテラシー ⑭サービスエコシステムとは ⑮ヘルスケアサービスの変化と全体まとめ</p>

これらのコンセプトを1年生向けにそのまま説明したのでは、理解しがたいのは自明だろう。したがって、学生に配布するシラバス(表)には、難解な学術用語はあえて使わず、イメージしやすい「身の回りの変化」に力点を置いている。

人の健康、地球環境の健康をSDGsの視点から問い直す

そもそも、「基礎」や「基盤」とは何を意味するのだろうか。看護はヘルスケア、つまり保健、医療、福祉サービスの一部である。換言すると、看護はヘルスケアシステムという基礎、基盤の上に成立する。

図2のように、看護の対象となる人間を中心に置くと、同心円は、サービス、多職種によ

て成り立つ組織、組織を支えるプラットフォーム(ITCシステム、学会、職能団体など)、健康基盤(社会医療保険、診療報酬制度、ソーシャルキャピタル、各種インフラストラクチャー)、そして、最も外縁には、地球生態系の存在がある。

健康に対するケアを構想するとき、対象を人間にのみ限定するケアは、いささか近視眼的であり、偏狭な意味での「人間中心」主義のドグマの産物になってしまう。人間の健康は、相互依存的で、階層的で、複雑な現象である。人間の健康は、地球生態系の健康の上に成り立ち、持続的な健康基盤があり、Society 5.0を可能とするレジリエントな各種のインフラストラクチャー、自然環境、病院、医院、保健所、街、ご近所、NPO、NGO、家庭を含む地域包括ケアシステムの存在があって、初めて成立する。

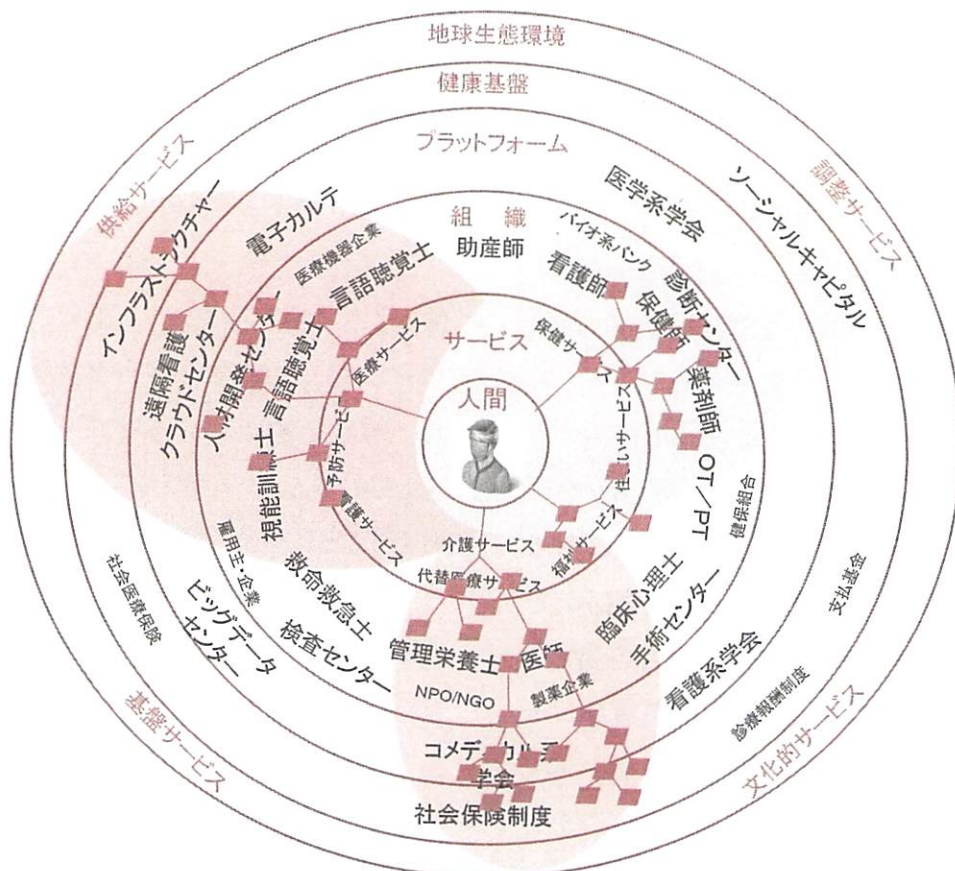


図2 エコロジー・システム(生態システム)として人間の健康をとらえた場合の同心円

このようなエコロジー・システム（生態システム）として人間の健康をとらえることの重要性は、欧米の先進的な看護学部を含むアカデミアでは一般的な傾向であるが、日本ではまだまだ弱いように思われる。近年、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が叫ばれているが、これを健康という視点からみると、持続可能な健康開発目標（SHDGs：Sustainable Health Development Goals）となる。人生100年ともいわれる現代において、健康をSHDGsの視点から構想して実践することが重要なのである。

情報通信（ICT）イノベーションの視点

「Society 5.0」は、超スマート社会ともいわれている日本が提唱する未来社会への変革コンセプトだ。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の先にある近未来の社会が Society 5.0 である。そこには、人工知能（AI）、モノのインターネット（IoT）、センサー、クラウド・コンピューティングといったテクノロジーによってイノベーションを創発させ、経済の持続的な発展と社会的課題の解決を図っていこうという含意がある。ヘルスケアにかかわるイノベーション、つまり、治すイノベーション、支えるイノベーション、防ぐイノベーションは、情報革命をテコにして巻き起こっている。

以上は、旧来的な看護学の狭隘な枠組みにとらわれている看護教員にとっても理解は容易ではなかろうが、現代の10～20歳代の若者は、子ども時代からインターネット、タブレット、スマホなどに親しんでいるため、基本をうまくつかまれば理解は早いものだ。

実際の看護の現場に、ICT革命がどのような

イノベーションを起こしているのか、そして、それらが、どのように看護の仕事に変化を与えつつあるのかを触りやすい実例を交えて講義をデザインしている。

サービス科学の視点

さて、ヘルスケアそして看護はサービスである。では、いったいサービスとはどのような性質をもつものなのか。近年発展が著しいサービス科学（Service Science）の代表的研究者であるVargo & Lushは、サービス一般がもつ性質を5つの公理と11の基本的前提を提示した。ここでは詳細を割愛するが、看護サービスと患者の関係性に当てはめると、次のようになる。

すなわち、看護サービスは、顧客・患者が利用することではじめて価値をもつことになる（使用価値）。その価値は、それぞれ異なる背景や文脈をもった患者によって現象学的に判断される（文脈価値）。患者は主体的な存在であり、看護サービスの価値は患者（顧客）とともに生み出されるものである（価値共創）。

「ヘルスケアサービス論」は、前述したように、健康に対して生態システム論のアプローチをとり、サービスについては、サービス科学的な視点から、看護を含めるヘルスケアの世界のなかで創発しているイノベーション、つまり価値共創をとらえることに重点を置いている。こう書いてしまうと、なにやら難解だが、これらを学生の肚に落とし込むためには、シラバス上の工夫が必要となる。

到達目標

近年、専門分野を扱う大学学部教育におい

てリベラル・アーツ（自由に生きてゆくための教養）科目が縮小している。しかしながら、地球環境のなかの自己を見つめ、奥深い人間性を養い、人間理解の視野を拡げ、広範な知の世界を享受することは、「看護観」や人間観の確立にとって必要不可欠なものであるはずだ。と言いながらも、この科目を一般教養科目として提供することはできないので、専門基礎科目として提供し、リベラル・アーツとしての特色を随所に織り込んでいる。

以上のような視点を踏まえ、本授業の到達目標は、次の3点である。

- ①地球環境の健康と人間の健康のつながりについてSDGsの視点から考察を深める。
- ②「ヘルスケアサービス」に対して科学的にアプローチするサービス科学の基本を理解し、か

つ説明できる。

- ③ICT革命から創発しているヘルスケアの多様なイノベーションの一端を理解し説明できる。

まとめ

もとより、授業の内容は、シラバスが改定された後は固定ということではない。日進月歩のヘルスケア領域の変化や時事問題を授業に織り込み、研究成果を授業内容に反映させるなどの創意工夫が求められるだろう。また、イノベーションの光と影を峻別するために、「出生前診断に誘発される人口妊娠中絶の是非」を問うなど、あえて正解がない課題を出してグループワークを学生たちに議論させ、発表させるといったアクティブ・ラーニング上の工夫も必要であろう。